

種
負
作
圓
貞
画

部

由
家

其

新異書林

九編下

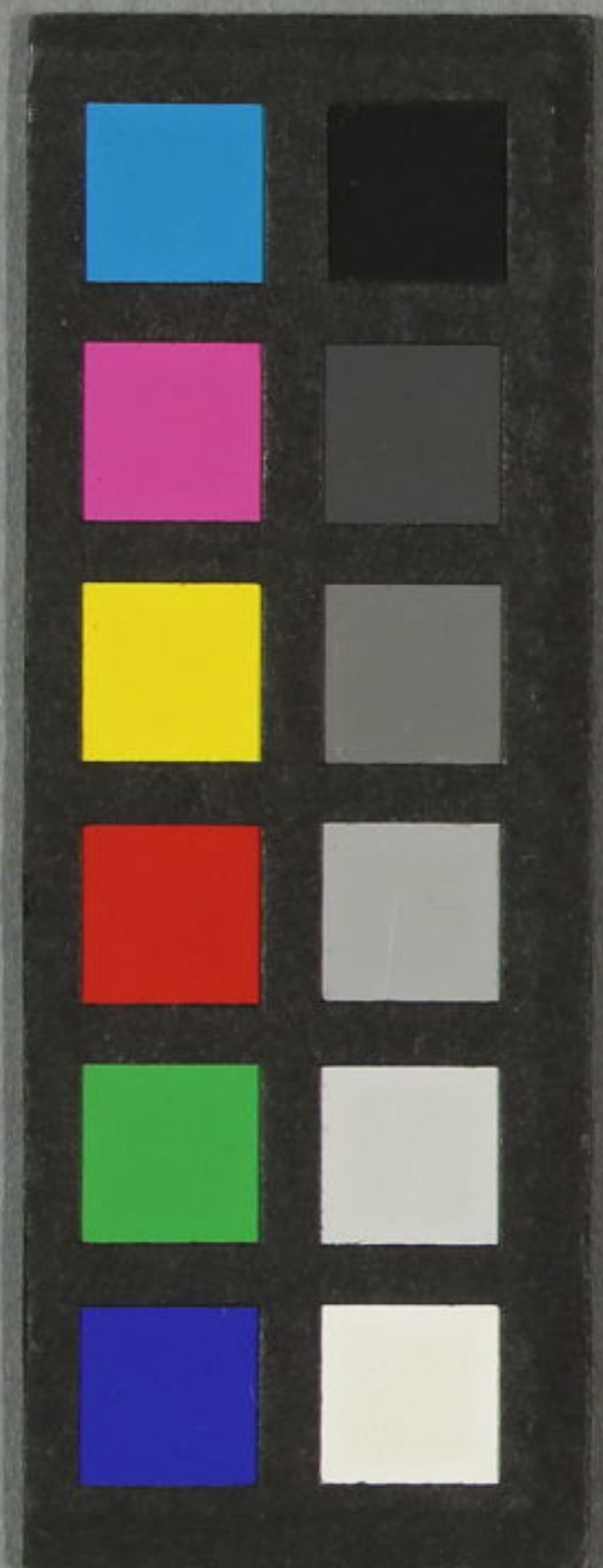
非題曲心國五

九編

~ 13
3730
18

~ 13
3730
17





繪本巻様

九編

非題曲三國五

~ 13
3730
17



其由縁鄙俤 第九編 上冊

若菜卷上

門へ13
號 3730
卷 17

むもよはるるの
こゝろをどあつれ
あきまゝにて

柳下亭種員作

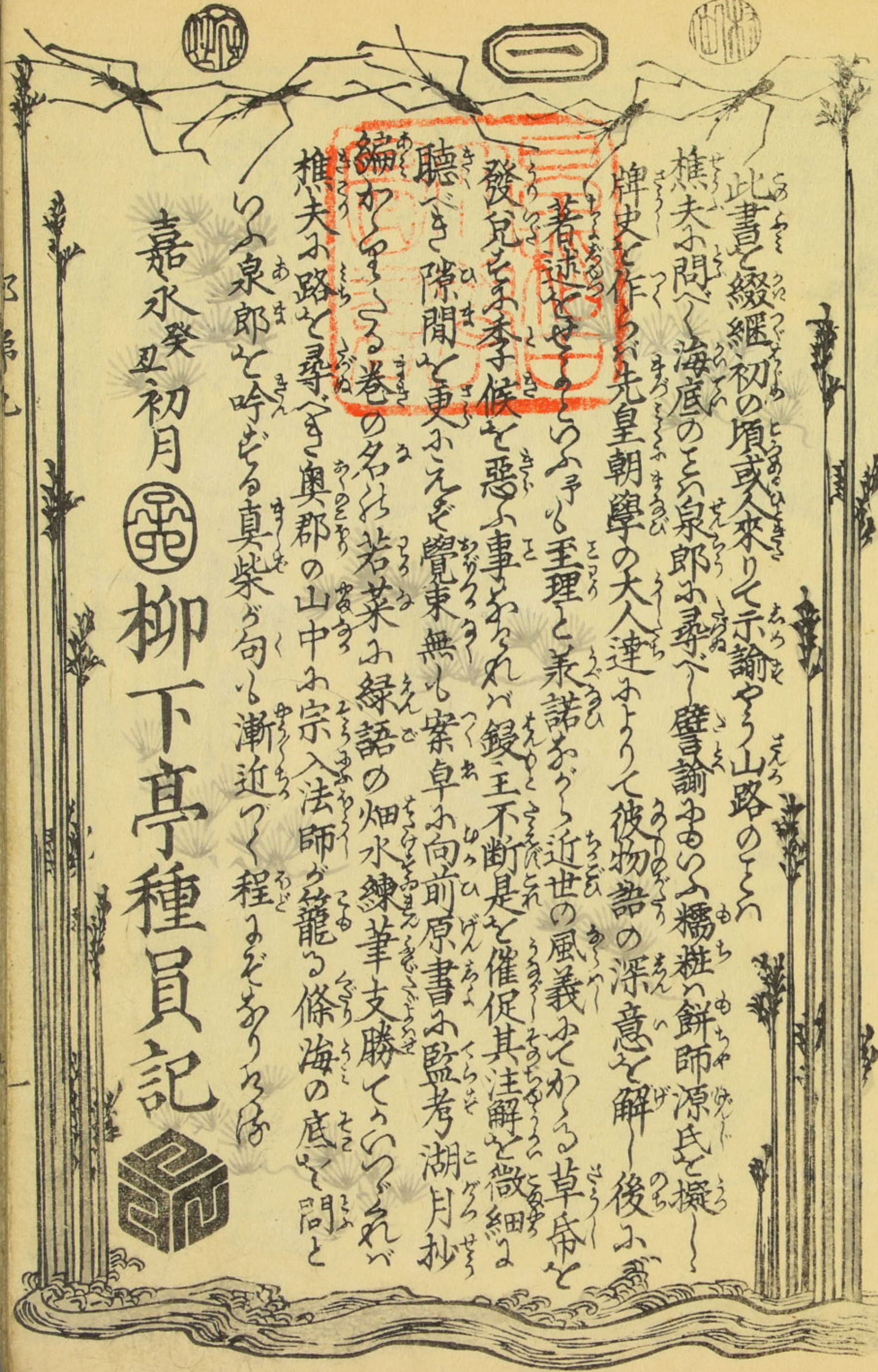
每蝶樓國貞画

笑書家版



此書綴綴初の頃或人來りて示諭やう山路のこゝ
樵夫小問へ海底のこゝ泉郎小尋へ譬諭のこゝ橋粧の餅師源氏と擬
牌史と作つゝ先皇朝學の大人達よりて彼物語の深意を解後ふ
著述せしむるも至理と兼諾おろし近世の風義おろし草帝と
發見とよ季候と悪ふ事おろし銀王不斷是を催促其注解と微細
聴き隙間と更ふえを覺東無も案卓ふ向前原書ふ監考湖月抄
編わらする巻の名は若菜小縁語の畑水練筆支勝てふつれ
推夫小路と尋ふ奥郡の山中小宗入法師が籠る條海の底を問と
いふ泉郎と吟むる真柴が句も漸近つく程もどありたり

嘉永癸丑初月 柳下亭種員記





若菜上

権中納言

湯島

あつさ

あつさ

雲井煎氏仲

曲



赤松

柏之助

番



田舎の女





つぎみづららんやま
かぢきそてるのよきま
ぢうよういこれより
つきのうちあつ小
あまかきとんん
てあゆり
てゆくのこの
けいんていひみる
まあたていざ
のやとりゆまのひより
あそれおま
あつたつこの
まひひ

あつたつこの
まひひ

あつたつこの
まひひ

未紅
あつたつこの
まひひ



あつたつこの
まひひ

あつたつこの
まひひ

あつたつこの
まひひ



修験者平仲院
 此の世はたゞ石ぞ
 ありてはるかに
 りありてはるかに
 りありてはるかに

名も世もたゞ石ぞ
 ありてはるかに
 りありてはるかに
 りありてはるかに

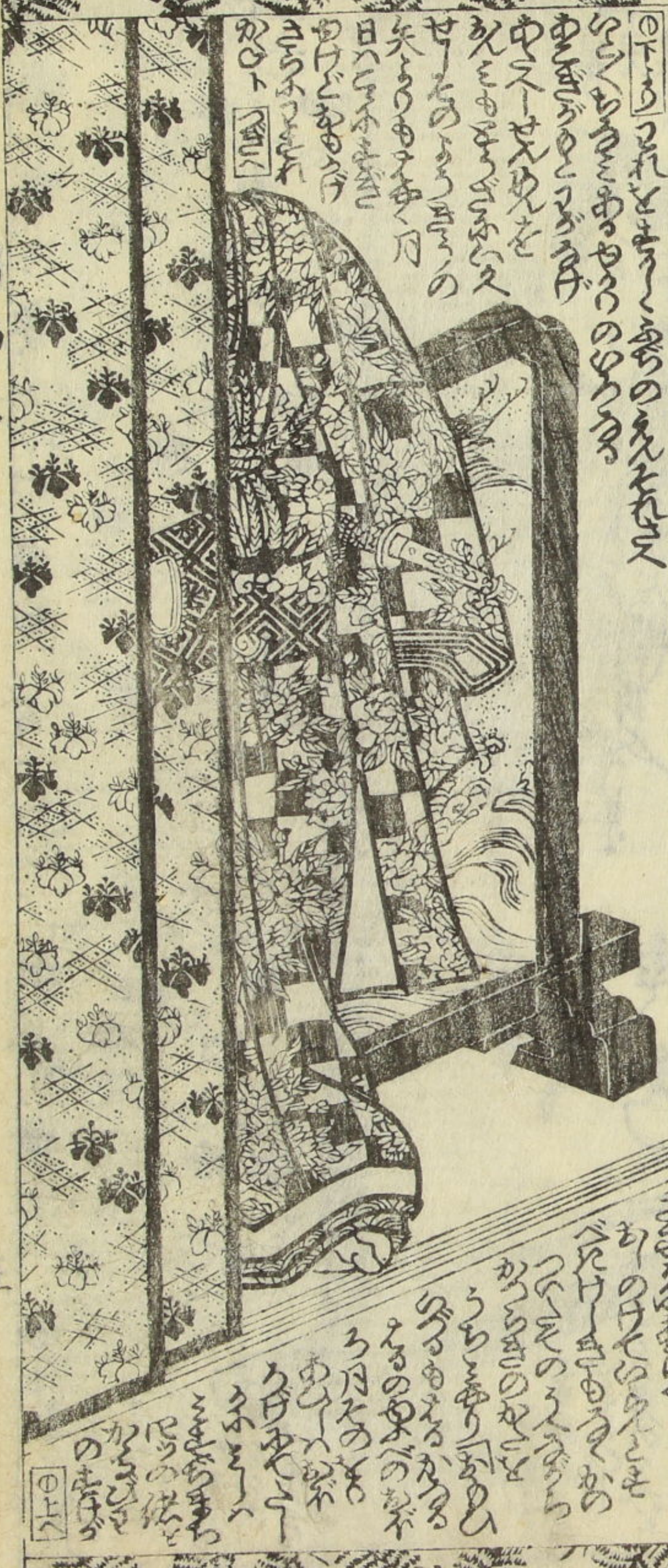
此の世はたゞ石ぞ
 ありてはるかに
 りありてはるかに
 りありてはるかに

この世はたゞ石ぞ
 ありてはるかに
 りありてはるかに
 りありてはるかに

この世はたゞ石ぞ
 ありてはるかに
 りありてはるかに
 りありてはるかに



此の世はたゞ石ぞ
 ありてはるかに
 りありてはるかに
 りありてはるかに



この世はたゞ石ぞ
 ありてはるかに
 りありてはるかに
 りありてはるかに

この世はたゞ石ぞ
 ありてはるかに
 りありてはるかに
 りありてはるかに



月夜のひとみ
 ついでにふたたび
 むらさきのあざ
 ときよ
 きんぎょ
 まつり
 まつり
 月夜にふたたび
 月夜にふたたび
 月夜にふたたび

●たまたま
 ついでにふたたび
 むらさきのあざ
 ときよ
 きんぎょ
 まつり
 まつり
 月夜にふたたび
 月夜にふたたび
 月夜にふたたび



世の中
 おのれ
 あつち
 月夜にふたたび
 月夜にふたたび
 月夜にふたたび

●たまたま
 ついでにふたたび
 むらさきのあざ
 ときよ
 きんぎょ
 まつり
 まつり
 月夜にふたたび
 月夜にふたたび
 月夜にふたたび



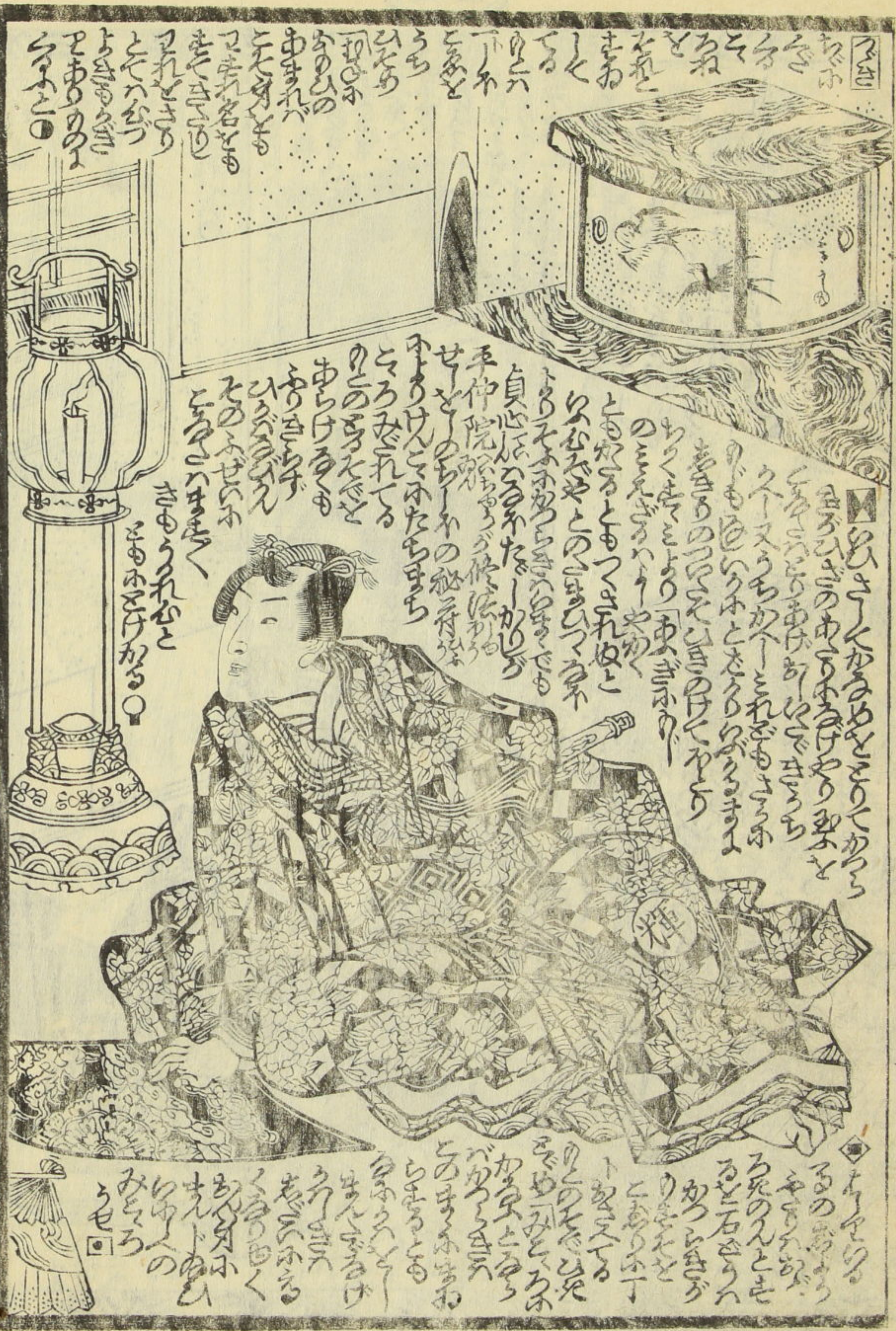
○わさかからしてさうさうさうさう
 むののそらねとさうさうさうさう
 えらりのせきともあけてあはれあはれ
 むまれのこのあかきのがわあはれあはれ
 さうむのたけとあはれあはれあはれ

○あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

那那九



○わさかからしてさうさうさうさう
 むののそらねとさうさうさうさう
 えらりのせきともあけてあはれあはれ
 むまれのこのあかきのがわあはれあはれ
 さうむのたけとあはれあはれあはれ

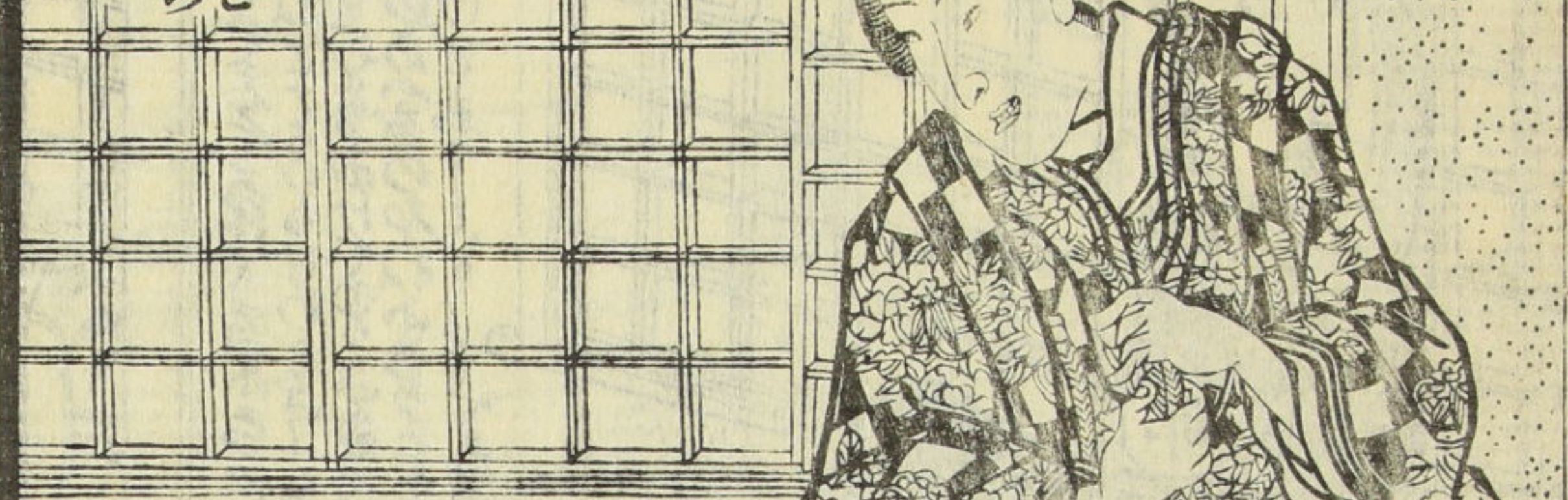
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

那那九

たるふん
 石まじり
 さまふ
 一のの
 りんどう
 とも
 かけの
 のま
 まふてき
 りり安
 バシヤと
 せんり
 せんり
 せんり
 さまふてき
 おひりての
 んとまるを
 ふいひを



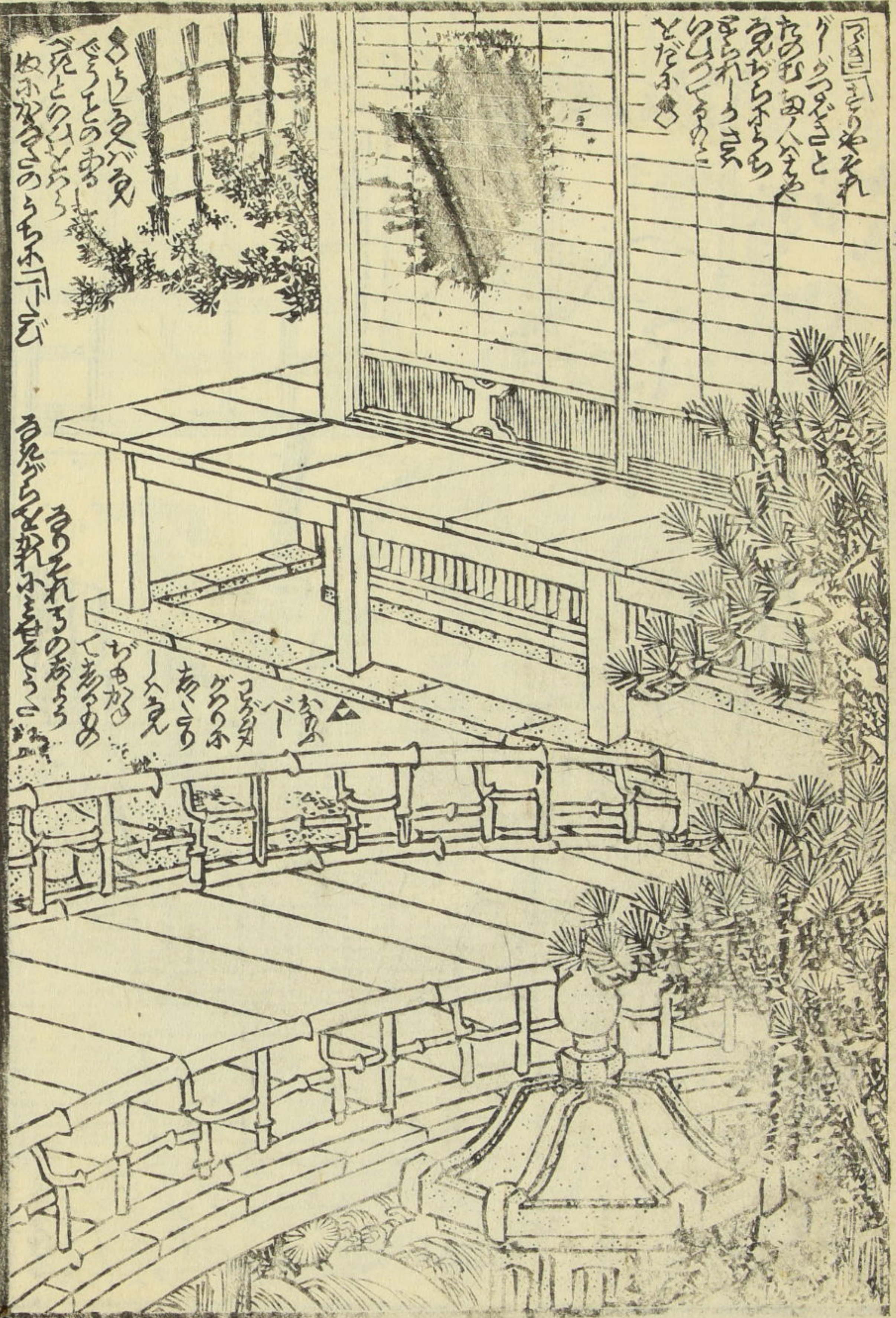
とうかふりやりの
 のうろののの
 玉ふおあちのて
 てるのことがい
 るのみやふあそ
 山名まていひ
 川はらうとく
 のてくらのと
 まんとものやうら
 どのてうままり
 すとそのいれわ
 に六条ふあひ
 よて氏中とも
 うちあて
 からあされよ
 まあうらこの
 ののあうら
 それが
 小せいのいせん
 といしあらん
 おまじりたの
 ととふの
 ねもあさけが
 けいやくの
 こことふふ
 あうら山名

ちかちか
 せまふたは
 せまふたは
 のけくか
 さうてうり
 せんり
 めんり
 さまふてき
 おひりての
 んとまるを
 ふいひを



とうかふりやりの
 のうろののの
 玉ふおあちのて
 てるのことがい
 るのみやふあそ
 山名まていひ
 川はらうとく
 のてくらのと
 まんとものやうら
 どのてうままり
 すとそのいれわ
 に六条ふあひ
 よて氏中とも
 うちあて
 からあされよ
 まあうらこの
 ののあうら
 それが
 小せいのいせん
 といしあらん
 おまじりたの
 ととふの
 ねもあさけが
 けいやくの
 こことふふ
 あうら山名

さきさきのあられ
くさくさ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ



あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ

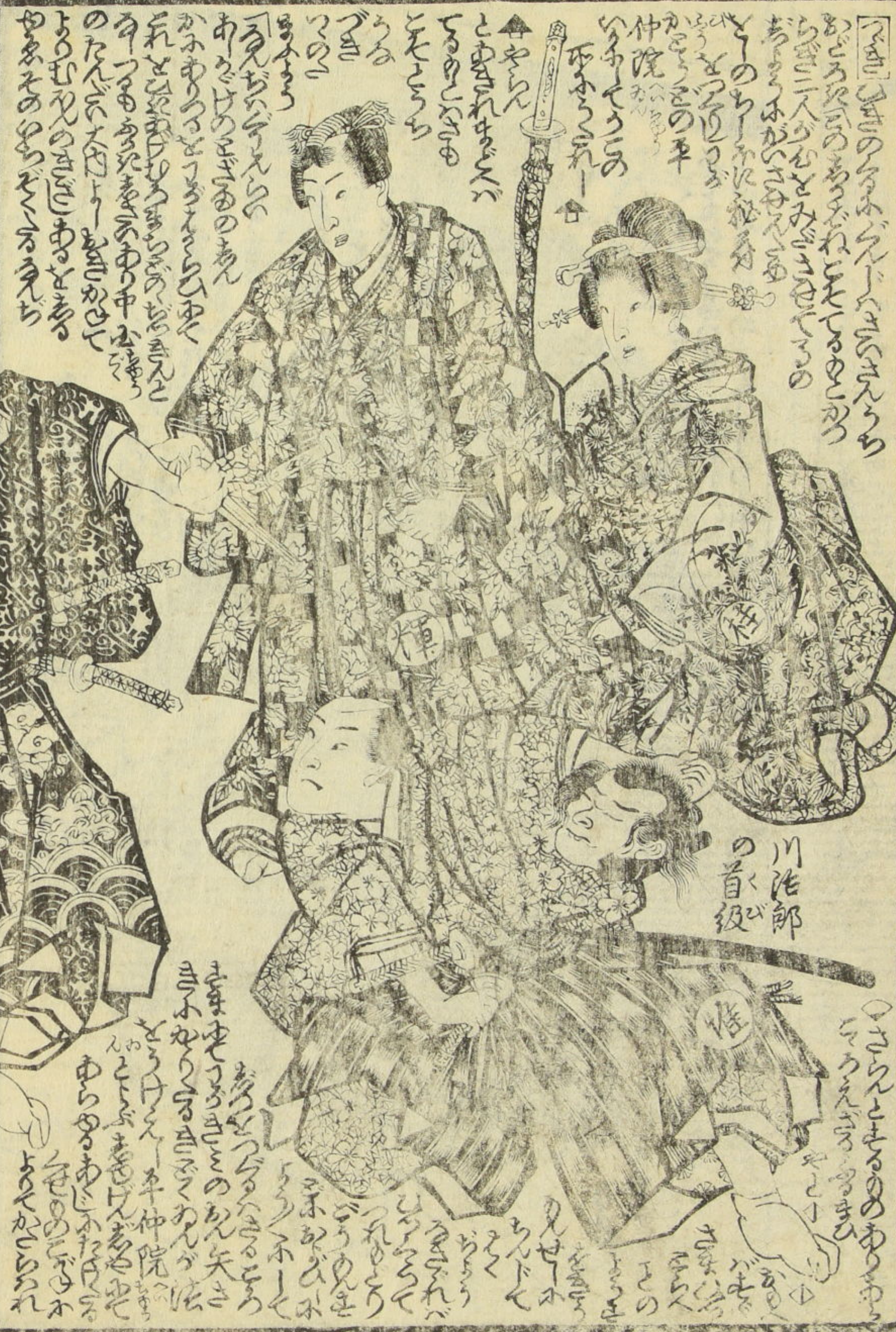
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ



あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ

あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ

あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ
あられあられ



つぎおらねどとてはまるみちのあめが
むろごるあいの田のさくらぐらと
あつておらねどとてはまるみちのあめが
あつておらねどとてはまるみちのあめが
あつておらねどとてはまるみちのあめが



種員作

製葉所新吉原 玉楼
取次所 真吉 山石坂下 柳下亭

國貞画

玉壺生肌膏 一貝料卅六孔
あつておらねどとてはまるみちのあめが
あつておらねどとてはまるみちのあめが
あつておらねどとてはまるみちのあめが
あつておらねどとてはまるみちのあめが
あつておらねどとてはまるみちのあめが

仁木善清
おごころの体

山名三郎清統

おごころの体
おごころの体
おごころの体
おごころの体
おごころの体

仁



禮

智



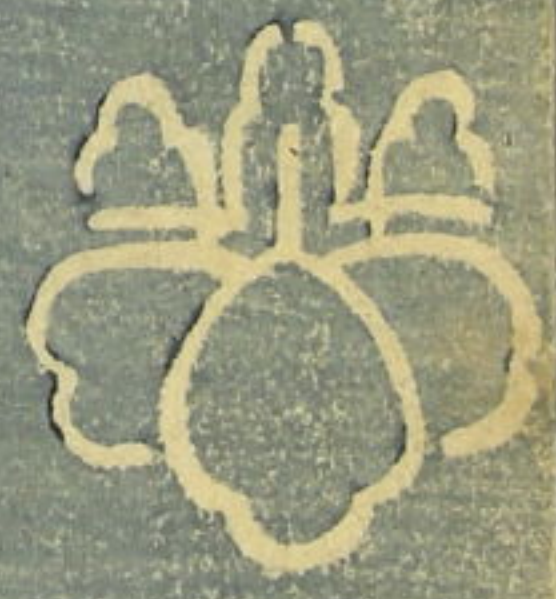
義

忠

孝



信



悌



3
4
5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2

部

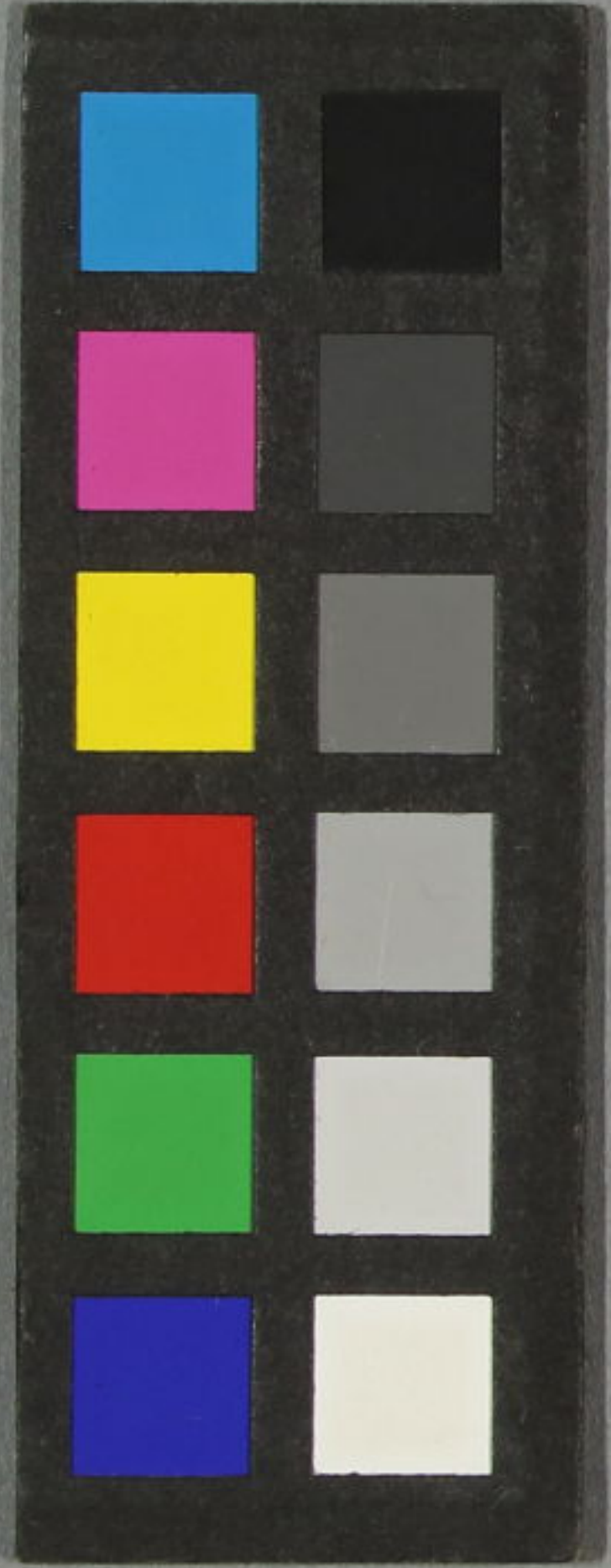
作

種
負
作

團
貞
画

九
編
下

~ 13
3730
18





あつしんもまぬ
ゆの残さうさまふ
あせあけつてさ
あおれあつてさ

三
あつしんもまぬ
ゆの残さうさまふ
あせあけつてさ
あおれあつてさ

この巻より「あつしんもまぬ」の物語は、
「あつしんもまぬ」の物語は、
「あつしんもまぬ」の物語は、
「あつしんもまぬ」の物語は、

此画も前の半丁おひょう
惟吉

物ごころ
の体さ
月治
郎と書まる
あつしんもまぬ
ゆの残さうさまふ
あせあけつてさ
あおれあつてさ

3730
18

自由縁部傷第九編

種員作

國貞画

下冊

錦昇文庫

あつしんもまぬ
ゆの残さうさまふ
あせあけつてさ
あおれあつてさ

あせあけつてさ
あおれあつてさ
あつしんもまぬ
ゆの残さうさまふ



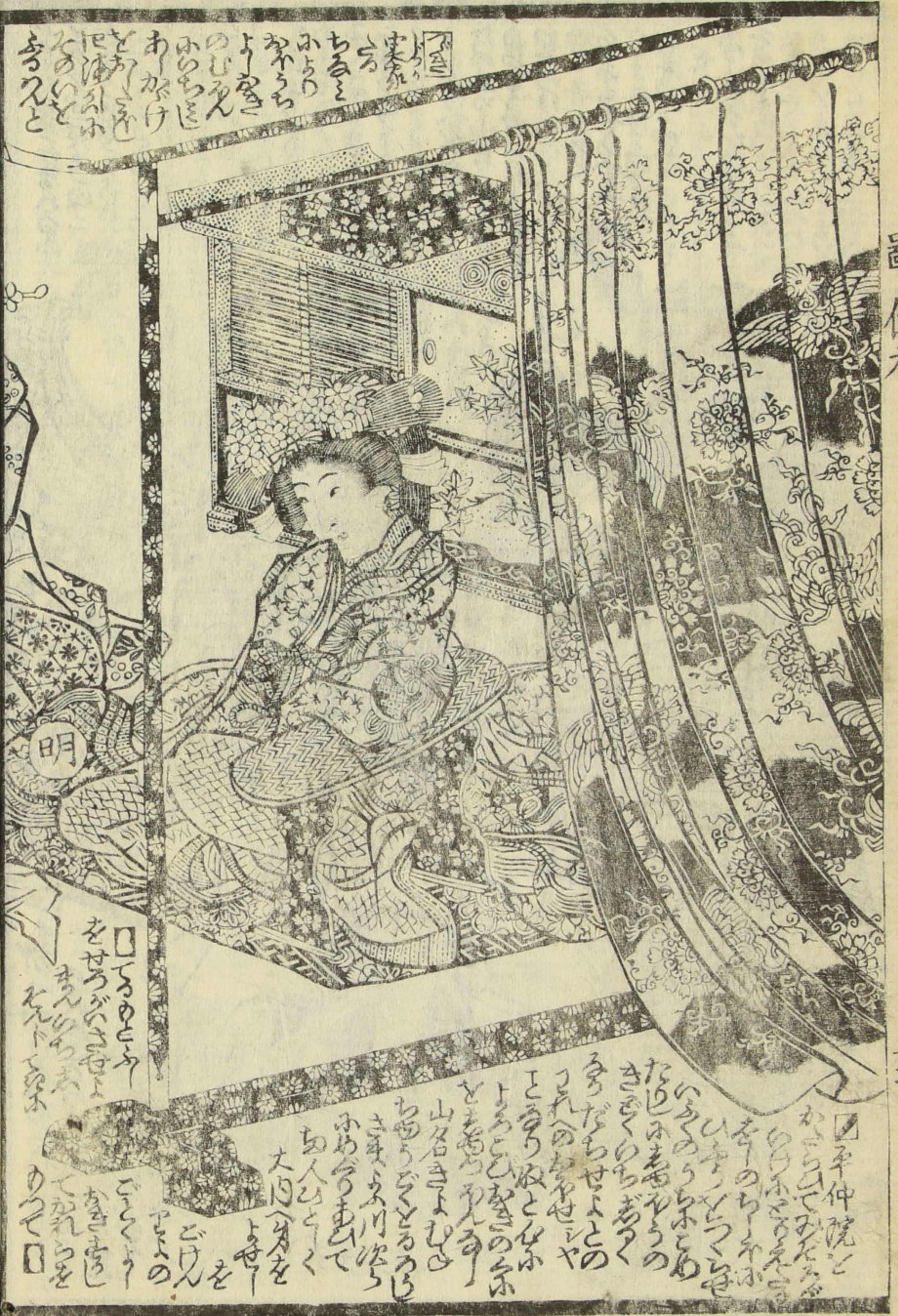
平仲院

三

たのうかたの
 のこゝろに
 あつたはら
 ちかひの
 りんご
 のてい
 ちかひの
 りんご
 のてい
 ちかひの
 りんご
 のてい

すま
 のこゝろに
 あつたはら
 ちかひの
 りんご
 のてい

ちかひの
 りんご
 のてい
 ちかひの
 りんご
 のてい



平仲院

ちかひの
 りんご
 のてい

ちかひの
 りんご
 のてい

ちかひの
 りんご
 のてい



ついでに
このおれと
あつたまん
あつたまん

さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ



さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ

さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ

明石の
内下
其の
体
解
見

さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ
さういふ

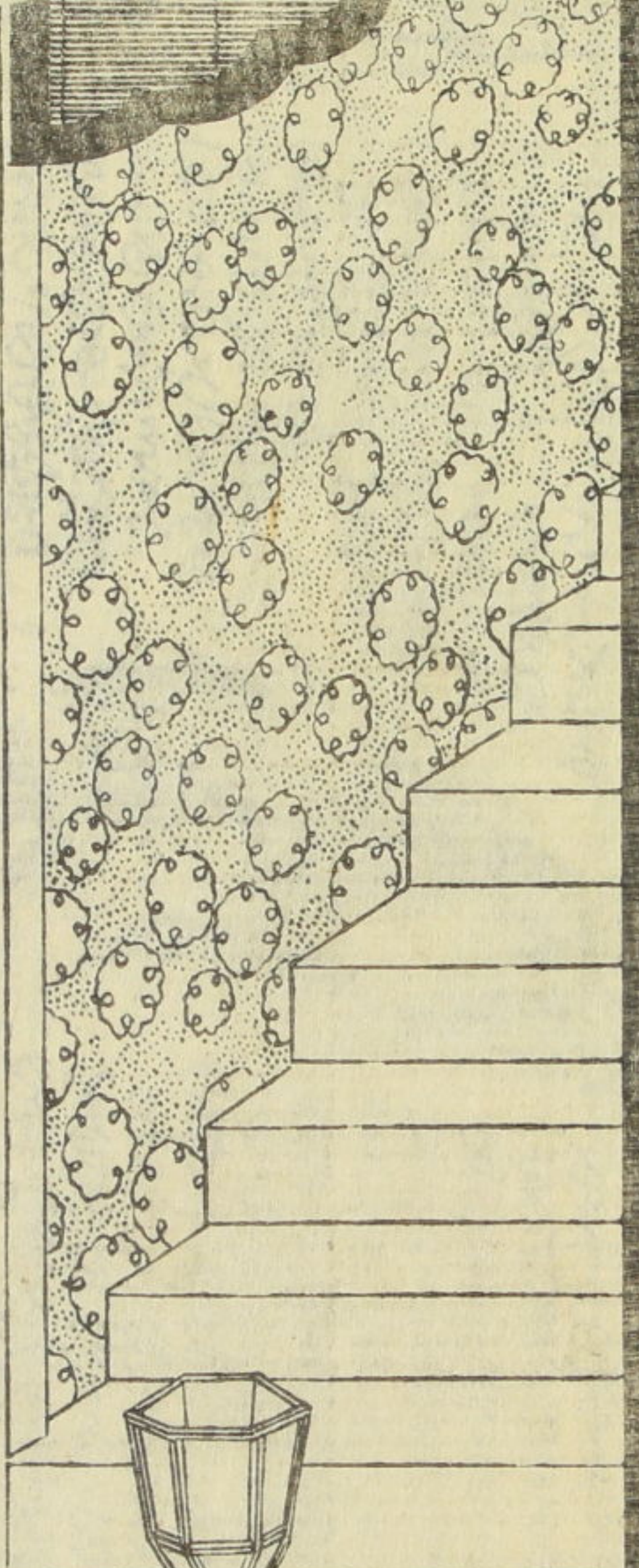
この世のふたつは
おのれのおのれも
下らぬ心持も
しるはるゝも
ちのちのちも
おのれも
おのれも
おのれも

おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも

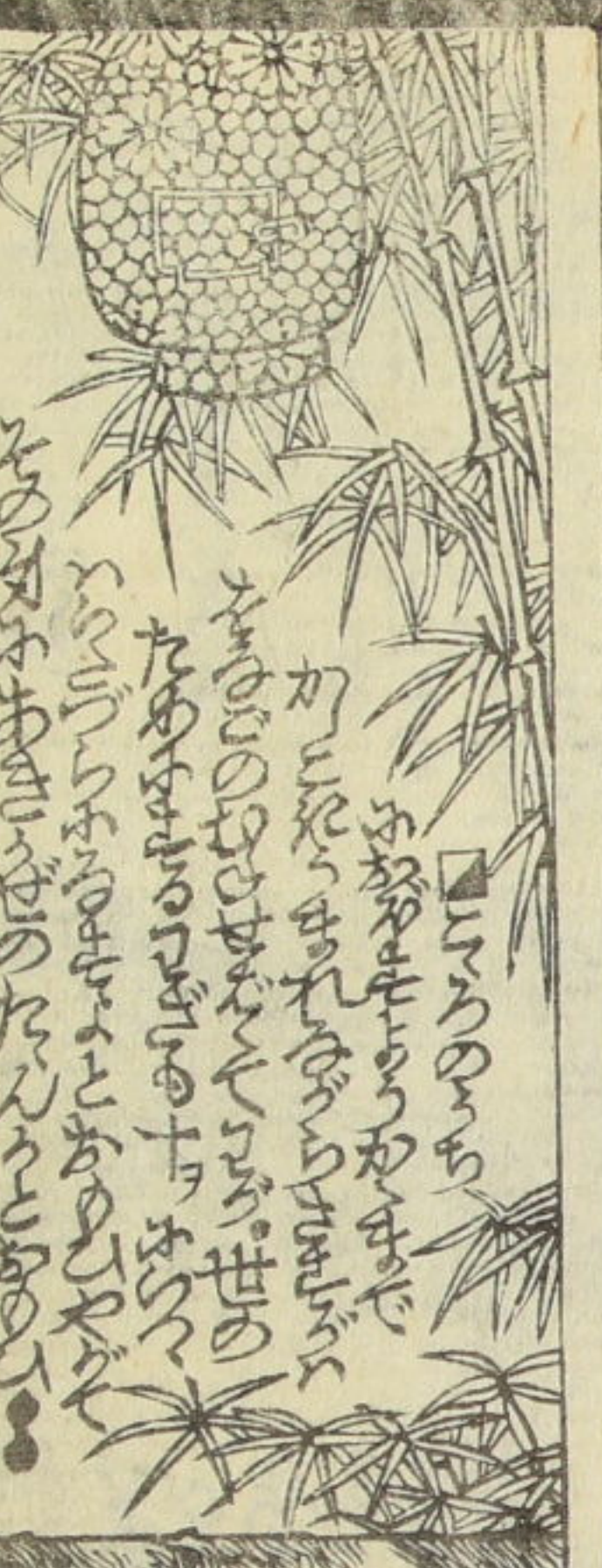


おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも

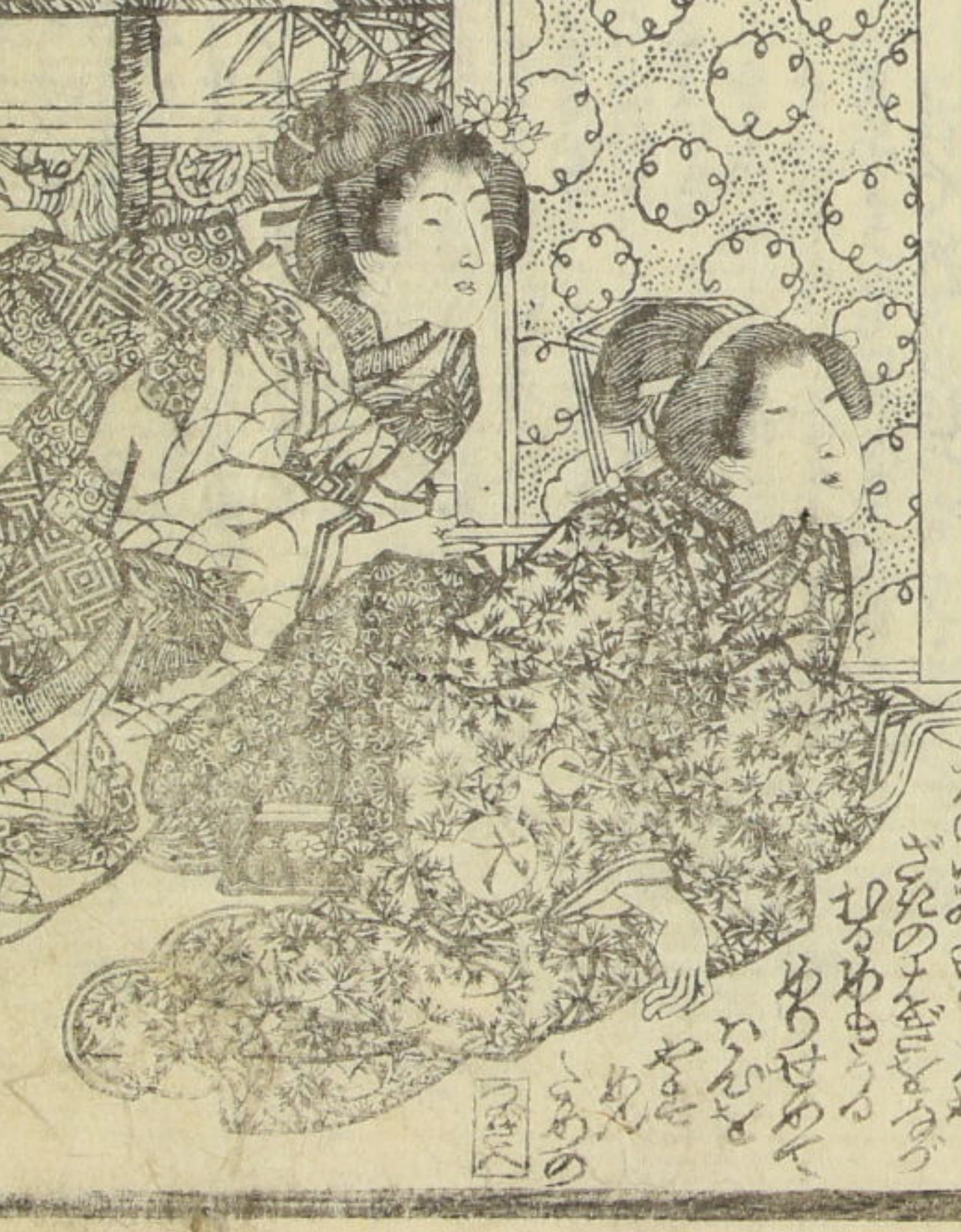
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも



おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも



おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも
おのれも



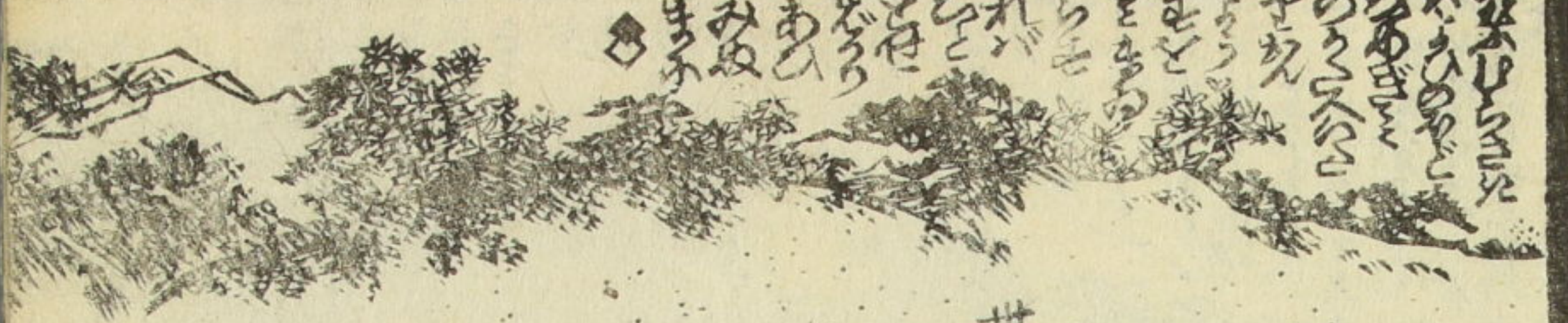
部系九

七

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, located at the top of the right page. The text is organized into several columns and includes various characters and symbols.



Handwritten text in a cursive script, continuing the list or index from the top of the page, located at the bottom of the right page. The text is organized into several columns and includes various characters and symbols.



Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, located at the top of the left page. The text is organized into several columns and includes various characters and symbols.



Handwritten text in a cursive script, continuing the list or index from the top of the page, located at the bottom of the left page. The text is organized into several columns and includes various characters and symbols.



此の物語は、
 昔の事と云ふ
 人の世は、
 常の事と云ふ
 人の世は、
 常の事と云ふ

六條
 大蔵
 新吉原
 玉壺生肌膏
 奇功帝一板丸
 製菓所
 取次所
 新吉原
 玉樓
 真金山
 柳下亭

玉壺生肌膏
 奇功帝一板丸
 製菓所
 取次所
 新吉原
 玉樓
 真金山
 柳下亭

種貞画
 貞作

三都妖婦傳

京都
 大坂
 江戸
 三都妖婦傳
 種貞画
 貞作



三都妖婦傳

中本
三編
出版

仙果作
豊國畫

春のみと草紙

京山
九編
二編
作

堀川唄直實録

仙山
五編
六編
作

當写殿下茶屋駅

三冊
三編
切
魯文作
國自画

土節筥相根仇討

三冊
三編
切
笠亭作
貞秀画

邯鄲諸國物語

十九編
廿編出版
笠亭仙果作
歌川國貞畫

地本草紙問屋灸榮久堂

江戶芳街
親仁橋角
山本平吉發兌



仁



禮

智



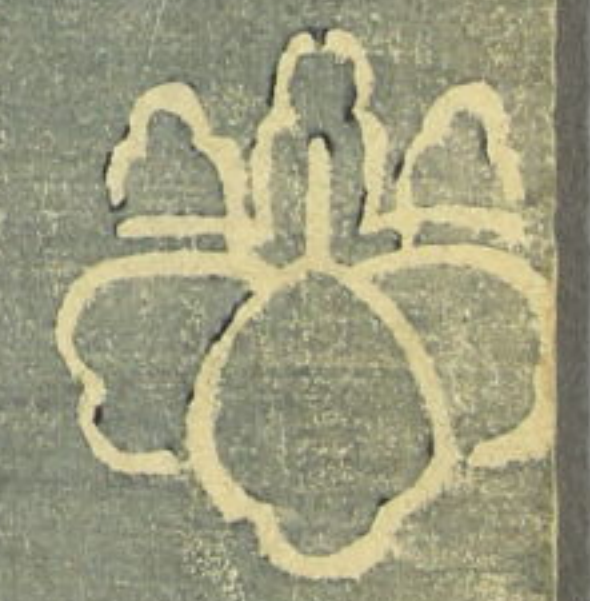
義

忠

孝



信



悌

